

境内で園児ら「やまもも」「びわ」を取ったり食べたり、楽しかったね

十市の神秘が明かされた!!

六月三十一日(木)朝九時半から、新宮神社の境内であとむ幼稚園と十市保育園の園児を招き、神前でケガ無く・また果実の爽りに感謝のお参りをしてから「やまもも」と「びわ」を取りをしました。前日の雨もからりと晴れて、青空の下で、高い木に登ったり、網で取ったり、お世話に駆けつけてくれた春峰会の方々の手助けで、の楽しい時間を過ごしました。

県農業試験場で研究していた橋本博好さんが忙しい中をおいでくださいました。園児たちは、巨大なやまももの木のままで、いっぱい収穫したびわとやまももを抱えながら、耳を傾けておりました。

宮司が、十市の人々は今から1000年以上前から、新宮神社・鎮守の杜を大切にしてきました、と話した後、橋本さんが素晴らしいお

話をしてくれました。此処に大きなやまももの木があるから、十市のやまももは美味しいとおおきな実が採れます。この樹は400歳くらいかな。このように大事に守られて来た樹は高知県には少ししかありません。この木には、実はならないのですが、花粉が1キロくらいの周囲に飛んでゆきます。

この花粉が飛んでいって美味しいやまももが採れます。たぶん鎌倉時代以降、十市の人々がこの木を大切に守ってきたから、十市には美味しいやまももが育ってきたんですよ。

園児たちも、大人も目を輝かして聞き入っていました。そのすぐ横には、銀杏の若木が四割ほどに育っています。これは、物部村のギンナン栽培農家の方が、お礼にと神社に植樹してくれたモノです。この方は毎年、十市の銀杏の花が咲く頃、雄花の一杯着いた開花寸前の枝をくださいとやって来ました。高知県内では、十市の銀杏の花が一番いいと喜んでいました。

昔から十市の新宮神社を探して、遠くから子授け・安産・子育てのお参りにお出でになるのには、こうした自然の不思議なメカニズムの起きていること知っていたのだなと私も納得しました。



けどおいしい」などと喜んでいました。あとむ幼稚園の山本光流君(5)は「一枚でひっかいて手が痛かったけど、面白かった」と話していた。

前日六月三十日には、雨の中RKCラジオのラジオカーがやまももの木の下から中継。当日はNHKテレビ、RKCテレビ、読売新聞、なんこくし広報、宇賀正豊さんが取材に来てくださり、楽しいニュースにとり上げていただき、ありがとうございました。



大きなやまももの木の前でお話をする、橋本博好さん

収穫したやまももとびわを抱いて、橋本さんの話に関心するあとむ幼稚園、十市保育園の園児